

学校法人五島育英会 学校評価（自己評価）制度 2022年度 実施報告書

学校名	東京都市大学等々力中学校・高等学校
校（園）長名	原田 豊

重点目標Ⅰ 良質な教育の実践					
重点課題① 魅力ある教育プログラムの開発・実践				自己評価	B
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等	
<p>【世界に通用する授業】</p> <p>①主体的・対話的な学びのための授業を実践する。</p> <p>②ロイロノートに習熟する。</p> <p>③英語科はリーフレットにある音読授業を活性化させる。</p>	<p>①「解のない問い」をテーマにした授業、あるいはジグソー法を使った授業か反転授業の実践の2種類(2回)の公開授業を実践する。いずれもICTの活用を前提とする。</p> <p>②ロイロ認定校を目指す。そのため主要5教科の教科会はそれぞれ2名、他教科はなるべく1名、今年度は全体で15名のロイロ認定教師の認定を目指す。</p> <p>③前年度から実施しているロイロノートを活用して音声を録音し提出させる手法を定着させ、音読授業の活性化を狙う。</p>	<p>①教育管理委と教科指導委で協力し2種の公開授業の取りまとめと報告集を作成する。</p> <p>②教科会でチャレンジする教員を確認し教科指導委で取りまとめる。</p> <p>③教育管理委・英語科は進捗を随時報告</p>	<p>①ICT フェアや日常の授業で94%の専任教員が公開授業を実施した。</p> <p>②12月にロイロ認定校に選出された。全国で8校目、東京・神奈川・埼玉では初選出となる。22名の教員がロイロ認定教師となった。</p> <p>③高3を除く各学年で授業内での音読の実施や課題として録音したものをロイロノートで提出させた。</p>	<p>①公開授業の報告集の冊子化の未着手は極めて遺憾。次年度は報告集の冊子化の完成を目指す。</p> <p>②認定校・認定教師数目標ともに達成した。次年度も新たにロイロ認定教師15名の輩出を目標とする。</p> <p>③次年度の高1より順次、単語熟語学習の中で音読の手法を取り入れる教材を導入し、更なる音読指導の活性化を図る。</p>	
<p>【模擬国連活動】</p> <p>①模擬国連活動の部活動化と活動の活性化</p>	<p>[模擬国連活動委]</p> <p>①高校生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏の全国高校教育模擬国連大会 ・12月の大妻大会 <p>中学2年3年は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月の大妻大会 ・3月の渋幕大会 	<p>[模擬国連活動委]</p> <p>①各大会への生徒の参加状況と参加生徒には感想を書かせ、効果を測定する。</p>	<p>①6月の大妻大会(中2が2名、中3が4名、高1が4名)、8月の全国高校教育模擬国連(高1が2名、高2が4名)、9月の全日本大会予選(高2が2名)、12月の大妻大会(中2が2名、</p>	<p>①全国高校教育模擬国連大会の初心者会場で最優秀賞を獲得したが、次年度以降は、英語会場での入賞、および全日本大会の本選出場を目標とする。そのために帰国生や英語αク</p>	

	<p>中学1年 ・3月の渋幕大会 上記大会への参加を促し全体で30名以上の参加を目標とする。</p> <p>②大会が無い時期も、学期ごとに集会を開き、模擬国連活動を周知しつつ、同好会の部員候補者を育成する。</p>	<p>②同好会の立ち上げ状況、もしくは立ち上げ準備の状況</p>	<p>高1が6名、高2が2名)、2月の駒東大会(中2が2名、高1が4名、高2が2名)に参加。計36名参加でほぼ目標を達成した。3月の渋幕大会の会場が江戸取中高になったため、新規で駒東大会に参加した。また、大会後、HPに報告を掲載した。</p> <p>②模擬国連推進校の2校の教員とオンライン会議を実施して意見交換をした。組織化することで特定の生徒のスキルを高め、先輩から後輩に指導するというサイクルを期待できるメリットもあるが、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大会がない時期に、どのような活動をするか、 2. 部員以外にも各大会への参加を呼び掛けるか、 3. 1つの部活(同好会)になることで、学校全体の取り組みになりにくいなどの問題点も明らかになり、当面、同好会化は見送り、現状の体制で活動していくとの結論に達し、了承した。 	<p>ラスの学年横断的な集会を行って、当該大会出場への意識の高揚を図っていく。</p> <p>②過去、1度でも大会に参加した生徒をリスト化し、優先的に大会参加を呼びかける。また、上記の通り、英語αクラスの生徒を積極的に模擬国連活動に参加させる方策を考えたい。目標としては、次年度は久しぶりに3月の洗足大会への参加者を出したい。また、今後は経験者に勧誘の際、レクチャーの際に関わってもらおう予定。</p>
--	---	----------------------------------	---	---

	<p>[中学2年]</p> <p>①クラス内討議では初めに教員が「アサーションの視点」を話す。ワークシート、ポートフォリオにはアサーティブな視点の振り返り記入欄を設ける。</p> <p>②システム4Aplusの継続。デジタル採点を用いて弱点の可視化を行う。考査前と考査後にテストを行い、弱点の認知→対応→確認・定着のサイクルを構築する。</p> <p>③自己発見と共生の旅、事後学習のプレゼンにおいては自己犠牲・社会貢献の視点で行う。</p> <p>[中学3年]</p> <p>①③：(1)行事の各リーダーに「目的」と「目標」を設定させ、アサーティブな関係を意識させ行動させる。</p> <p>(2)「平和と命の旅」で自分と違う視点を学び、自他双方を大切に考えるアサーティブな</p>	<p>[中学2年]</p> <p>①教員が必ず関わる状況を作りワークシート・ポートフォリオの記入を確認する。</p> <p>②考査前の4Aplus後のTQノートに、振り返りと考査に向けた取組みの記載を確認する。</p> <p>③プレゼンで自己犠牲か社会貢献の視点の有無を確認する。</p> <p>[中学3年]</p> <p>①③：(1)スポーツ大会、藍桐祭、合唱コンクールでは各クラスで振り返りを実施する。</p> <p>(2)事前学習のやり方を学年会で確認。ゴール設</p>	<p>[中学2年]</p> <p>①「共生の旅」に向け改めてアサーションスキルの重要性を強調した。また、主要な学校・学年行事7つをあげ、Classiでポートフォリオ化した。不備な生徒には書き換えを求めた上で、全員提出させている。</p> <p>②4Aplusは確実に実施。システムの趣旨は十分に生かされた。他校に通う兄弟のいる保護者から指導の質の高さを称賛された。</p> <p>③各グループ、オリジナル性を発揮したプレゼンとなった。グループ全体に社会貢献の視点が含まれていた。</p> <p>[中学3年]</p> <p>①③</p> <p>(1)各クラスとも行事ごとの目的と目標を設定し、振り返りを行った。ただ、スポーツ大会ではリーダーが自身の役割を果たさず、まとまりを欠くクラスもあった。</p> <p>(2)事前学習は部長が担任の指導マニュアルを作成</p>	<p>たい。</p> <p>[中学2年]</p> <p>①ポートフォリオの年間計画は検討する必要があると考える。何をどのくらいまで書かせるのか。学年を超えた枠組みで検討する必要がある。</p> <p>②1stステージでは、日ごろからReflectionの重要性を説く必要がある。</p> <p>③オリジナル性にこだわりすぎる部分も感じたが、中3のLiP大会につながる意識を学年内で共有したい。</p> <p>[中学3年]</p> <p>①③</p> <p>(1)係・委員の決定の際に、リーダーとなる生徒には役割の十分な説明を行い、リーダーの自覚を涵養する必要を感じた。</p> <p>(2)OneNoteの活用の有効性について確認できた。</p>
--	--	--	--	---

	<p>関係を学ぶ。</p> <p>②生徒指導において、問答法により内省させ、気づきを与え理論化させていく手法を導入しメタ認知能力の育成に努める。</p> <p>(1)中2での「自己調整学習」を深化させ、自ら課題を見つけ、何をいつまでにやるかを判断できるメタ認知の育成を図る。</p> <p>(2)逆算 TQ や TQ ノートを活用し、毎日学習の進捗や成果を振り返りさせ、次に向かう戦略を立案できるメタの育成を図る。</p> <p>[高校1年]</p> <p>①学年集会、面談や指導の中で、「三つの話し方」を念頭に置いて指導をしていく。</p> <p>「攻撃的な自己表現」(相手を傷つける)</p> <p>「非主張的な自己表現」(自分を傷つける)</p> <p>「適切な自己表現」(バランスのとれた表現)</p>	<p>定を明確にする。</p> <p>②毎日 TQ ノートを回収しコメントを付すことで中3生と全員のメタ認知能力向上させる。</p> <p>[高校1年]</p> <p>①友人や異年齢の人とのやり取りの中でモラルを持った関係の構築ができています。</p>	<p>し、OneNote で共有化し、共通の指導を行った。また、進捗や生徒の状況のフィードバックも OneNote 及び学年会で共有した。</p> <p>②(1) 必須課題を廃止し全て任意課題とする「自己調整学習」が定着した。任意課題はテストと紐づけすることで下位層が他学年と比較して少なく、上位層も課題に追われることなく自己の課題に向き合うことができ、学力向上を図ることができた。</p> <p>こちら他学年と比較して上位層は非常に多かった。</p> <p>(2) TQ ノートは全クラス毎日回収して、コメントを付した。Reflection を必ず行わせメタ認知能力の向上を図れた。</p> <p>[高校1年]</p> <p>①最も留意して取り組んだ学年宿泊行事のグローバルキャンプでは、クラス横断的班編成を実施し、多くの課題に取り組ませた。それ例年になく一貫生と高入生の間関係が良好で、教</p>	<p>②TQ ノートのクオリティが各クラスにより差が生じた。せめてコース毎に必ず書く箇所を設定すべきであった。</p> <p>[高校1年]</p> <p>①アサーションが教員または生徒に強く意識されるまでには至っていない。また、SNS 上で起こる生徒間のトラブルに対して、その予防も含めて対応する必要を強く感じた。今後の</p>
--	---	--	--	--

	<p>②適時にポートフォリオを書かせることで自分を振り返らせ、メタ認知力を向上させる。また年度当初には中学までの振り返りをさせ、高校でどう過ごすかを考えさせる機会を設ける。</p> <p>③研究論文の作成過程であるグループ学習やポスターセッション、メンターセッションなどの場を、感謝・高潔・共生・英知などの徳性を育てる機会とする。</p> <p>[高校2年]</p> <p>①修学旅行や藍桐祭においてアサーティブな人間関係を育めるように学年集会やHR等で意識づけを行い、働きかける。</p>	<p>②ポートフォリオに振り返りと次回の目標が書かれている。中学の振り返りシートが活用できている。</p> <p>③生徒の論文の「あとがき」で指導の成果を評価する。</p> <p>[高校2年]</p> <p>①②③振り返りポートフォリオでの回答で評価する。アサーティブな人間関係が作れたかなど、直接的な質問をして①②③の達成状況を評価する。</p>	<p>員間の評価も高かった。</p> <p>②ポートフォリオは11回の行事を学年で指定して振り返りを行った。特に年3回実施した「読書ポートフォリオF」や「慶太先生を学ぶ会」「研究論文メンターセッション」では、生徒の成長がよく伺えたポートフォリオになっていた。その他自発的に入力する生徒もおり、振り返りに活用できた。</p> <p>③高大連携のメンターセッションでは、都市大の先生方や東大生のメンターなどの客観的で厳しい外部評価に触れることで、視野の広がりを実感する様子が観察できた。知的な交流が知性はもちろん、徳性の涵養にも関わっていると感じた。</p> <p>[高校2年]</p> <p>学年部長が直接240名のポートフォリオを点検した。</p> <p>①6割以上が達成できたとの回答だった。1割のマイナス回答の中にも高い意識による厳しい自己評価の生徒が多かった。</p>	<p>課題だと考える。</p> <p>②ポートフォリオが大学入試において今後再導入されるかが疑問ではあるが、的確な課題を配信し取り組ませることでメタ認知力をつけるために効果的だと感じた。</p> <p>③高大連携によるメンターセッションが課題だと考える。より多くのメンターの確保と経費を考えた。また、今年はメンター派遣の業者を変更したが結果的に協力体制等で問題だった。この取り組みで徳性を育てるのは無理があると言わざるを得ない。</p> <p>[高校2年]</p> <p>①アサーティブな人間関係の構築への意識に対しては一定の定着が見られる。</p>
--	---	--	---	---

	<p>②自己に対する認知レベルを、面談や行事で振り返りポートフォリオを活用し高めていく。</p> <p>③自己実現に向け進路意識を高め、継続的に努力できるメンタリティを涵養すべく、きめ細かな面談を実施する。また社会貢献に対する意識を高める働きかけをし、ボランティア活動等への積極的な参加を促す。</p> <p>[高校3年]</p> <p>①② 受験に臨む高校3年生だからこそ、アサーティブな人間関係やメタ認知力が重要になってくることを、生徒に向けてあらゆる機会を通して説諭していく。そして、その上で以下の取り組みに生徒が配慮できるように指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 志望理由書の作成 ・ 面談準備シートに基づく二者および三者面談 ・ TQノートの活用、ポートフォリオによる模試の振り返り <p>③進路集会（学年全体・コースごと）や講座を通じて、「受験は団体戦」の意識を持たせる。</p>	<p>③ボランティア活動や社会貢献活動への参加実態を把握し、その取り組み状況で評価する。</p> <p>[高校3年]</p> <p>①生徒が自らの進路について自らの言葉で語り、保護者や教員のアドバイスにも耳を傾けるようになっている。</p> <p>②生徒が自身の強み弱みを理解したうえで学習計画を立て、遂行できるようになっている。</p> <p>③春季講座のように、生徒同士が声を掛け合って頑張る姿が年間を通して見られるようになっている。</p>	<p>②各学期1回、計3回の振り返りポートフォリオを実施するにとどまった。</p> <p>③ボランティア参加は数名にとどまった。ただし、これはコロナ禍からまだ完全に脱し切れていない社会情勢にも原因がある。</p> <p>[高校3年]</p> <p>①②志望理由書こそメタ認知の高さが発揮されるものであり、そうした認識のもとに例年より早期に、そして計画的に作成できた。出願直前に慌てて準備する様子は見られなかった。また、担任の面談準備も周到であったため根拠あるアドバイスがなされ、効果的な出願にも生徒の認知力向上にも繋がっていた。</p> <p>③講座も臨時に招集した過去問対策勉強会などにも参加率が高かった。また、自習室の利用率も高く、誘い合って自習する姿が見受けられた。</p>	<p>②認知度を測る質問がかなり難しく、どう質問すればいいのか、課題が残る。</p> <p>③ボランティア活動に対しては働きかけが十分ではなく、積極的な参加が見られなかった。</p> <p>[高校3年]</p> <p>①②志望理由書は高2の3学期から取り組み清書を春季課題としたが、ベストなスケジュール感だった。面談準備シートやTQの活用については各担任の裁量で、志望理由書とポートフォリオは学年統一で行うなど、学年で検討して担任のやりやすさを最優先させるのがよい。</p> <p>③課題や改善点は特になし。</p>
--	--	---	--	--

重点課題② サポート体制の充実				自己評価	B
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等	
①インディゴ研修の実現と海外大学進学のためのフォローアップ ②帰国生指導を点検し再構築を試みる。	①2023年度研修実現に向け、2022年度はインディゴの校長に來校いただき生徒・保護者向けの説明会を行う。 ②高2からの英語取り出し授業の再検討及び米国大学の学生にインターンシッププログラムとして一定期間勤務していただく。	①保護者の関心を喚起し一定数の参加者を集め説明会を成功させる。 ②米国大学担当者と協議し2023年度開始に向けた計画書を作成する。	①2022年度は先方の都合により実施できなかった。 ②米国大学担当者より一度連絡をいただいたが、その後の進捗はない。やはりコロナ禍で大きな進展は望めなかった。ただ、その他の帰国生プログラムを体系的にまとめ、訴求力を向上させることはできた。	①2023年2月26日インディゴの理事長・校長一行が本校に來て、打合わせは実施できた。 ②2023年度実施に向けて連絡を密にし、具体的にプログラムの日程や受け入れ人数などを確定する。その他のプログラムはリーフレットの形でまとめた。次年度はさらに詳細を詰め、完成させる。	
重点課題③ 教職員の人材育成・資質向上				自己評価	A
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等	
【いじめ対策】 ①いじめ対策の研修が行われ、等々カスタイルのロールプレイが全ての教員で実践できる。 【授業力向上】 ①授業モデルの教員による研究授業が年間を通じて行われている。	[生徒活動委] ①いじめ研修を計画する。教員向けの「ノブレス・オブリージュの教育：こんな時こうするシリーズ」でいじめ対応の特集を取り上げる。ロールプレイの実践に至るような内容とする。 [教育管理委] ①教育管理委はTeamsを用いて研究授業や公開授業の告知を行い、実施報告書を提出する。また、授業評価アンケートを分析し授業規律が保たれているか確認する。	[生徒活動委] 令和4年度に「いじめ研修」を実施する。一般論で終わることがないように本校の実情に合わせた内容を実践する。 [教育管理委] ①年度末に公開授業の実施率を算出し報告する。	[生徒活動委] ①いじめ研修は未実施 コロナ禍で研修そのものの設定が困難であった。 [教育管理委・ICT教育] ①ICTフェアは、教員の個別の指導力向上、他校の実践例を学ぶ機会となった。また、200名の受験生及び保護者の参加で入試戦略的な貢献も果たすことができた。公開授業実施率は94%であった。	[生徒活動委] ①いじめ研修の実施を目指し、内容・講師の選定を検討する。 [教育管理委・ICT教育] ①第4回ICTフェアではロイロ認定ティチャーの増員を目指す。また、他校の先進的な取り組みにも触れる研修も取り入れたい。	

<p>【ICT教育】 ①等々力ICTの活用モデルが多くの授業で定着してきている。</p>	<p>[教育管理委・ICT推進委] ①ICTフェアを6月25日に実施する。本校の複数の教員によるICT授業を外部に向けて公開することで、募集戦略にも繋がるようなフェアにする。</p>	<p>[教育管理委・ICT推進委] ①6月25日の等々力ICTフェアにより教員の活用力を向上させる。</p>	<p>[教育管理委・ICT推進委] ①ICTフェアや普段の授業において94%の専任教員が公開授業を実施。</p>	<p>[教育管理委・ICT推進委] ①公開授業の報告集の作成が未着手なので次年度は報告集の完成を目指す。</p>
<p>重点課題④ー1 ICTを利用した教育計画</p>				<p>自己評価 A</p>
<p>本年度の施策内容（達成目標）</p>	<p>具体的な取り組み内容</p>	<p>評価の観点</p>	<p>達成状況</p>	<p>課題・改善方法等</p>
<p>【生徒カルテ(仮称)の作成】 ①素案を提示する。 ②帰国生・AL入試・付属小出身生・特奨生の追跡調査名簿を作成し活用する。 【教育支援クラウドシステムの活用】 ①ロイロノートの活用力を向上する教員研修が終了している。 【eポートフォリオの完成】 ①ポートフォリオ年間実践計画の修正・改善 ②活動報告書作成指導の実施</p>	<p>[ICT戦略室] ①素案の「型」を作成する。その過程で「データや活用の仕方を検討」する。 ②考査順位・模試偏差値の記録フォームを作成し、主管部署に指示する。主管部署は経営会議で決める。特に入試対策は追跡調査を活用する。 ①ロイロ認定教師15名を目指す。 ①メタ認知能力の向上を図る上でも、それぞれの学年での主たる取り組みに対する、生徒本人の言動履歴を残しておくことは重要である。行事委員会と学年部長で協力し、学年ごとにポートフォリオ化するものを計画し実践する。 ②行事委員会と学年部長で協力し、書式について決定する。</p>	<p>[ICT戦略室] ①素案の「型」はできたか。組み込むデータの選別作業と共に、活用できる「型」を完成させる。 ①教科指導委・教育管理部の報告書で評価 ①②教育設計・学年部長の報告で評価</p>	<p>[ICT戦略室] ①生徒カルテの素案を提示できた。今後は「型」の策定に向けた完成版の提示に向けて取り組む。 ②各種の入試状況から入学した生徒の成績面を拾い上げることはできたが、「型」の作成を今後は広報戦略室に移行して取り組みたい。 ①ロイロ認定教師は23名となり、目標を達成した。 ①2018年度に実施計画を完成させ、2021年度に実施状況を確認。改善の必要を認識しているものの、具体的な修正に至っていない。 ②活動報告書の書式については各大学が提示しているものを参考にアウトラインを構想中。学年部長</p>	<p>[ICT戦略室] ①生徒カルテの実用化を目指した検討、実践を進めていきたい。 ②広報戦略室で検討をして、早期に「見せる化」の実現を目指す。 ①②とも今年度中に求められていた段階までは未達成の状況である。次年度も引き続き取り組む。</p>

			間での書式の共有までには至っていない。	
<p>【学年別学習・進路教育計画】</p> <p>①Monoxer とスタディサプリの活用促進のための施策、あるいは高2・高3 は朝の自習の代替システムの活用の充実のための施策</p> <p>②中学の再指導の充実化、高校は進学実績向上のための施策を明確にする。</p> <p>③自習室の利用促進、あるいは生徒の自学自習力育成のための施策</p>	<p>[中学1年]</p> <p>①Monoxer を、英単語の習得だけでなく生徒同士で小テストを作成するなど、主体的な学びに繋げていく。スタディサプリは、単元視聴後に配信する課題や小テストに利用し、スモールステップを繰り返すことで、基礎固めに有用であることを生徒に意識づける。</p> <p>②不得手な分野を持つ生徒を早期に発見し、教科担当と学年団で共有する。生徒本人が「出来ること」と「出来ないこと」とがわかり、個々に可能な到達地点(目標)とそこに至るまでの方策を、スタディサプリ等を利用して中長期展望をもって指導していく。</p> <p>③アナライズセンター職員と連携し、自習室の利用回数を学年で把握し表彰制度を設けて学年末に発表する。競争意識による親和力の向上を最大限に活用する。「自習して帰る」こ</p>	<p>[中学1年]</p> <p>①大学受験の基盤である基礎学力が定着する。作成された小テストを保存し、都度状況を診断する。</p> <p>②学習面での「中1ギャップ」で不安を抱える生徒を抑え、中学生としての高次の動機付けの学習に臨めるようになる。</p> <p>③当面の目標値を1日の利用者数30名と定め、以後状況を見て定める。</p>	<p>[中学1年]</p> <p>①生徒同士の小テスト作成には至らなかった。スタディサプリは、アナライズセンターと連携し、冬休みに「Eフェスタマラソン」に希望者が参加、12月13日から1月6日までの集計で全国11位に入った。その他、各教科で単元前後にスタディサプリの視聴を随時活用した。</p> <p>②考査前にプレテスト、考査後、基準点に達しなかった生徒対象のアフターテスト、そこでも低い点数の生徒には、学期ごとに個別指導をおこなった。別途、放課後に、国語では任意補習の「よちよち漢文」・「よちよち文法」を実施。英語では、アナライズセンターと連携して、スタディサプリを利用して英文法の基本を学ぶ「よちよち文法」講座を開催。</p> <p>③自習室を年間に利用した生徒は、高3を凌いでトップになった。年間100回以上の利用者も10名を突</p>	<p>[中学1年]</p> <p>①スタディサプリが基本の定着に有用であることを年間通じて伝えつつ、昨年以上に、単元ごとにスタディサプリ視聴を義務付けていきたい。</p> <p>②次年度も、プレテスト⇒考査⇒アフターテストのサイクルは継続していきたい。また、下位生徒にも、課題の回収を含め、こまめに働きかける機会を持ち、必要に応じて個別指導を設けていきたい。</p> <p>③今年は、教室居残りを推奨せず、自習する生徒は極力自習室に行くよう促した。次年度も、そのスタイ</p>

	<p>とを習慣づけたい。</p> <p>[中学2年]</p> <p>①毎朝10分間のMonoxerの時間では、「先取り」を意識させて取り組ませる。スタディサプリはテスト機能の活用を増やし、再指導とも連携させる。</p> <p>②中間考査後に1回、期末考査後に2回の年8回以上の再指導を設ける。再指導はコーチング主体とするが、提出物の指導も併せて行う。</p> <p>③休日・家庭学習日・入試期間における「オンライン自習室」など、生徒主体の取り組みを紹介・推進する。</p>	<p>[中学2年]</p> <p>①Monoxer コーチング人数を学年の10%以内にとどめ、再指導ではスタディサプリを教員が指定し生徒が視聴する状態になっている。</p> <p>②予定の再指導が実施され、対象者が変化し、指導内容はコーチングに近づいている。</p> <p>③教員間で生徒主体の取り組みの共有、推進がされ、教員の関りが生</p>	<p>破した。終業式において表彰予定。</p> <p>[中学2年]</p> <p>①コーチングは2/22の回で25名(13%)。他の回次では40名を超えることもあった。再指導とスタディサプリの連動は、2学期より実施した。成績下位者への指導が教員の手を離れたことにより、下位2番手層に教員による指導を行うことができた。この2番手層の指導は、生徒、教員、双方にとって有意義な時間であった(効果的であった)と報告を受けている。</p> <p>②8回の実施ができた。まだまだティーチングの方が効果的な段階であった。</p> <p>③テスト(考査・模試)前の休日に実施していた。Zoomへの参加人数は20名</p>	<p>ルを継続すると共に、アナライズセンターとタイアップして、年間通じて1回も利用しなかった数名の生徒も足を向けたくなるような、魅力的なイベントを企画していきたい。</p> <p>[中学2年]</p> <p>①日々の取り組みの重要性を再度指導するとともに、その取り組みの内容(生徒の実態との差)についても検討を進める。下位2番手層の教員指導は双方にプラスの効果があり、今後も継続する。</p> <p>②コーチング指導が適切な場面と、ティーチングが効果的な場面がある。現状、再指導はティーチングを優先する。</p> <p>③中3では、より学力上位層に対して、プラスティータとも協力しながら、生徒の</p>
--	--	--	--	---

	<p>[中学3年]</p> <p>①英検取得の大切さを伝えることで、Monoxerに取り組ませる。毎日取り組ませることで、3級取得83%から95%、準2級33%から60%に引き上げる。</p> <p>また、スタディサプリは以下の通り中2学年から継続で活用する。</p> <p>(1) 再指導で「宿題配信専用講座」を配信。受講させた上で、再指導当日に「単元テスト」を実施する。</p> <p>(2) 面談準備シートの活用。苦手な単元を書かせ、担任面談で提出。アナライズへ提出し最適な動画とテストを課題としてもらい効果的なアダプティブラーニングを行う。</p> <p>(3) 到達度テストの活用。分析資料から弱点を分析し、ステージアップ合宿で使用する教材作成に生かす。</p> <p>②再指導は中1から継続しているコーチングを導入。</p> <p>スタディサプリを活用して定期考査範囲を学び直す。自習の時間にはアナライズからコーチを派遣し、質問対応や学び方などをコーチする。</p> <p>③自己調整学習を継続し、課題に関しては必ず確認テストを紐づける。プラスティールームはコーチング主体の形態へと変化させ、グループで学び合う集団を育成する。さらに駿台全</p>	<p>徒に伝わっている状態になっている。</p> <p>[中学3年]</p> <p>①英検準2級取得は60%、3級取得はほぼ100%達成させる。またスタディサプリの活用を左記の通りに遂行する。</p> <p>②再指導は学期3回実施し、学習コーチングの形態で自己肯定感を高める指導を徹底する。生徒の充実度をリサーチする。</p> <p>③プラスティールーム受講者は、月初めに目標を設定し、グループで競争し高め合う集団にし</p>	<p>に満たないことも多いが、教員も不定期ではあるが参加し、生徒の取り組みを励ますことができた。</p> <p>[中学3年]</p> <p>①朝の10分でMonoxerやスタディサプリENGによる英語学習を行わせた。結果、準2級取得は72%。3級取得は97%達成。目標を大きく上回る結果を残せた。スタディサプリの活用は(1)(3)は実施。特に(3)は合宿での教材作成に生かすことができ、4月の模試では学年平均SS(偏差値)60以上を達成した。</p> <p>②再指導はコーチング形式で引き続き実施。中1の時から自己肯定感を高める指導を実施、GTZでのB層を18%にとどめることができた。</p> <p>※B層とは、ベネッセ主催の進研模試におけるGTZ(学習到達レベル)の「国公立大・中堅私立大レベル」</p> <p>③プラスティールームはグループコーチングの形式を導入。グループで定期考</p>	<p>チームでの活動を促進させたい。</p> <p>[中学3年]</p> <p>①②は面談準備シートを用いた担任面談は実施できたが、アナライズセンター移動により、アナライズへの提出者はゼロ。このため、再指導の時にアナライズのコーチに来てもらい、一人一人と面談し、最適な動画とテスト課題を課してもらった。</p> <p>③今年度は学年教員がプラスティールーム側に、目的や具体的指示を出し、且つコーチングに参加し、アンケー</p>
--	---	---	---	---

	<p>国模試を導入し、上位生徒の意欲を高め学習意欲を喚起する。再指導は中1から継続しているコーチングを導入。</p> <p>[高校1年]</p> <p>①Monoxerの英検対策教材がターゲットシリーズに変更されたことに伴い生徒のモチベーション維持に向けて、毎週の単語テストや定期的にボキャブラリーコンテストを開催する。</p> <p>②-1 入試形態の変更点などの情報を定期的に生徒におろしていく。</p> <p>②-2 放課後、誰でも参加できる「チャレンジ塾」を作り、高1レベルでも解ける大学入試問題を準備し、教え合いながらチャレンジしていく取組みを実施する。</p> <p>③②-2の仕掛けによって自学自習力を育成し、時間内で解ききれなかったものは自習室へ誘導する。</p>	<p>ていく。最難関国公立大学を本気で目指す集団を形成し、10名以上の最難関国公立合格者を輩出する下地をつくる。</p> <p>[高校1年]</p> <p>①ボキャコンを学校定例以外に活用できている。</p> <p>②-1 学年会や進路指導で新しい情報がおろされている。</p> <p>②-2 毎日教え合いの様子が見られ、入試問題にチャレンジできている。</p> <p>③生徒自ら自習室へ行く環境ができている。</p>	<p>査の点数を競わせたり、互いの学習方法を共有したり、難度の高い問題を教えあったりと超進学校の雰囲気をつくり、最難関国公立を目指す集団を育成できた。</p> <p>[高校1年]</p> <p>①ボキャコンは、出題範囲や追試・課題を工夫し、学年教員全員で協力して9回実施できた。また夏冬の課題ではコース別にスタディサプリを有効に活用できた。</p> <p>②-1 新入試の研修等に参加し、新しい情報は、生徒保護者共に共有することができた。</p> <p>②-2 チャレンジ塾は定期考査前以外の20回実施することができた。</p> <p>③昨年に比して自習室の利用は多くなった。また教室へ残って自習する生徒も多かった。</p>	<p>とも実施したことで良い運営ができた。今後、プラスティークーティングを有効化していくためには、学年で担当者を決め、打ち合わせを密に行っていくことが大切であると考えます。</p> <p>[高校1年]</p> <p>①紙による単語テストは採点とその確認に時間にとられる。Web上でできるようになるとよい。</p> <p>②-1 大学側が一斉に新入試制度への対応を発表しないため、定期的に研修会に参加することが大切である。</p> <p>②-2 教員主体の講座も長期的な視点で運営していく必要があると感じた。</p> <p>③18時まで教室自習の後、自習室へ流れるように学習計画を立てさせる。</p>
--	--	---	--	---

	<p>[高校2年]</p> <p>① 朝の自習について英数国3教科の実施内容を年度当初に確定させ、確実に実施していく。また生徒の状況を逐一把握し、問題があれば実施内容や方法の検討改善を速やかに行う。</p> <p>②進学実績向上のための具体的な施策を学年団で話し合い4月中には確定させ、確実に実施していく。特に最上位層にはプラスティコーチングを活用、中下位層には面談やスタディサプリの活用を推進する。</p> <p>③面談における促しや、自習室利用状況の可視化に取り組む。</p> <p>[高校3年]</p> <p>①受験に直結した朝テストとして、主要5教科の教員自作の問題を解答させる。</p> <p>②生徒のニーズに合った講座（放課後特訓講座、夏季・冬季登校講座、A・B・Cターム）を早い段階で具体的に計画し、告知する。</p> <p>③学期末ごとに生徒各自の自学自習の充実度を、アンケートによって自己評価させる。アンケートは事前に告知しておき、ポートフォリオ化することで振り返りをさせる。</p>	<p>[高校2年]</p> <p>①②③具体的な取り組みの実施状況によって評価する。</p> <p>[高校3年]</p> <p>①朝テストが基礎力向上に資し、模試の得点にも奏功している。</p> <p>②特に夏季講座7月8月ともに75%、冬季講座は60%の生徒の受講を目標とする。</p> <p>③ポートフォリオ化による振り返りで、「自学自習力」が学期ごとに向上している。</p>	<p>[高校2年]</p> <p>①1学期は英語3回、国数各1回で実施。2学期からは英語の1回分を理社に振り替えて実施。</p> <p>②最上位層にはプラスティコーチングを実施、中下位層にはアナライズセンターと協働し面談を実施。対象者にスタディサプリの受講の促しを行った。</p> <p>③アナライズと協働し、利用状況を可視化し、集会等での呼びかけにつなげた。</p> <p>[高校3年]</p> <p>①年度当初の計画に則り、最後まで継続できた。</p> <p>②受講率は夏季7月84.9%、8月86%、冬季64.6%と目標を達成できた。</p> <p>③学期ごとより多く、模試ごとにポートフォリオを提出。振り返りの記述が回を追うごとに具体的になっていった。</p>	<p>[高校2年]</p> <p>①②③ともに滞りなく実施できた。</p> <p>[高校3年]</p> <p>①実戦重視で入試過去問題からの出題に切り替えた。自己採点後も解き直しに自ら取り組む姿が多く見られたため、切り替えて正解だった。</p> <p>②今年度のスケジュールを基本に、毎年計画を進められるとよい。</p> <p>③模試と模試の間隔が短いので、学期末ごとより模試ごとがよい。</p>
--	---	--	--	--

重点課題④ー2 国際化計画				自己評価	A
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等	
<p>【国際教育】</p> <p>①日常的なオンライン交流システムを研究する。</p>	<p>【国際教育室】</p> <p>①キルビントン校との交流をこれまで以上に頻繁に実施し内容のあるものとして行く。</p>	<p>【国際教育室】</p> <p>①学校間交流を定期化すると共に生徒個人間でのメールによる交流の開始</p>	<p>3年ぶりに10週間プログラムを実施できた。また、2名キルビントン校からの留学生を受け入れた。</p>	<p>生徒個人間のメールの交流はどのような生徒を対象にどのように行うかの検討がまだできていないので検討をしていく。</p>	
重点目標Ⅱ グループ間連携の深化・拡大					
重点課題 各学校の連携強化				自己評価	B
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等	
<p>【研究論文指導】</p> <p>メンターの人選が行われ、ほぼ都市大の院生や講師による指導体制が整っている。</p> <p>【GL講座】</p> <p>都市大の教授による講演が行われた。</p>	<p>【高校1年】</p> <p>①夏休みにはリサーチクエッションの方向性を固めるために、冬休みに要約文を完成させる。その内容指導に都市大の先生や学生によるメンターセッションを設ける。</p> <p>【行事委員会】</p> <p>GL講座として年1回以上の都市大教授による講演を実施させる。</p>	<p>【高校1年】</p> <p>①メンターセッションが開かれ、設定した課題が解消している。</p> <p>【行事委員会】</p> <p>行事委員会の報告で評価する。</p>	<p>【高校1年】</p> <p>メンターセッションは実施したが、その多くはトモノカイの学生で、都市大の院生や講師からは夏に6名、冬に1名の返事をいただくに留まった。</p> <p>【行事委員会】</p> <p>やはりコロナ禍の影響で講座自体が縮小傾向であった。しかし、都市大情報工学部・情報科学科の張英夏准教授の講演を3/23実施した。</p>	<p>【高校1年】</p> <p>都市大の先生や講師陣がどの程度本校の取り組みに参加いただけているのか当該学年は全く見えていないことが問題だと思う。都市大の担当者と直接状況の共有をすることが大切である。</p> <p>【行事委員会】</p> <p>今年度はGL講座として他の講演を実施することができなかった。</p>	

重点目標Ⅲ 教育環境の整備・充実					
重点課題 効率的業務の推進				自己評価	A
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等	
①自習室の移設後も従来通りの利用状況を確認する。	<p>[学習進路委]</p> <p>①4月のオリエン期間に、中高6学年にむけて新自習室利用に向けたオリエンテーションを実施する。</p> <p>②1学期の中間テスト後（利用者数が減る時期）に、キャンペーンを実施（スタンプラリー。スタンプ5個でスタディサプリの粗品を贈呈）。</p> <p>③定期テストごとに利用者の分析をし、必要に応じて、学年教員を巻き込んだ施策を実施する。</p>	<p>[学習進路委]</p> <p>①オリエンテーションの実施の状況・内容</p> <p>②キャンペーンの実施状況、利用者数の推移</p> <p>③具体的に実施した施策の内容と利用者数の推移</p>	<p>[学習進路委]</p> <p>①開室がGW後に伸びた関係で、各学年ごと個々の対応となった。但しTLC専用の「手引き」を作成して配信。</p> <p>②1学期中間テスト後にキャンペーン（スタンプラリー）を実施。賞品のノベルティを得た生徒は約170人。</p> <p>③目標通りに定期試験ごとに、推移を分析することはなかった。但し、テスト前だけではなく、一年を通じて利用者が増えた。年間の利用者総計では昨年の18,684人に対して、今年は31,113人だった。</p>	<p>[学習進路委]</p> <p>①特に新中1・高1高入生には、次年度4月のオリエンテーション期間中に、丁寧にレクチャーしたい。</p> <p>②③今年度は、昨年までがコロナ影響下にあったこと、及び自習室の旧都市大施設への移設による収容規模の従前との差異があったこともあって経年的な比較がしにくかったが、新年度は実施したい。また、一年の推移も見ていきたい。</p>	
IV 募集広報活動				自己評価	A
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等	
<p>①定員確保</p> <p>②説明会等の見直し</p> <p>③サテライト説明会の見直し</p>	<p>[入試管理委]</p> <p>①スマホ・携帯などICTを活用した募集戦略を組み立てて支持層を拡大していく。</p> <p>②6年生は説明会、5年生以下は見学会に分けて開催する。</p> <p>③過去の説明会参加者の居住地を参考に、実施地域を抜本的に見直し受験生の掘り起こしを図る。</p>	<p>[入試管理委]</p> <p>・2023年度入試において、実受験者が2022年度の1.2倍に増加している。</p>	<p>[入試管理委]</p> <p>①SNSの登録者中学1,756、高校300計2,000名に情報を発信。</p> <p>②6年生、5年生以下と分けて回数を増やして実施した。</p> <p>③サテライト説明会の地</p>	<p>[入試管理委]</p> <p>①②③全体の課題として、5年生以下の参加を増やす。</p>	

			域を池袋、吉祥寺、町田に変更し地域を拡大。	
--	--	--	-----------------------	--

V 進路指導				自己評価	S
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等	
①具体的な数値目標の達成	[高3学年・学習進路指導委] 国公立 65 旧帝大 5 首都圏 30 早慶上理 110（早慶 40） GMARCH 300	[高3学年・学習進路指導委] ・数値目標を達成する。	[高3学年・学習進路委] ・国公立 84・旧帝大 11 首都圏 39 で目標達成。 ・早慶上理 ICU 153、早慶 47 で目標達成。 ・GMARCH458 で目標達成。	[高3学年・学習進路委] ・今年に関しては特に無いが、強いて言えば、東大・京大の合格を出し、私大では慶応の数を増やしたい。	

校（園）長による総括

<p>①本計画書、並びに報告書は校長の示す「学校戦略目標」に基づき、各学年部長・委員会の委員長が「具体的な取り組み内容」を策定することになっている。取り組み内容が評価において数値的な客観性に乏しいという批判もあるが、数値化しやすい目標だけを目標とすることにも疑問がないわけではない。人事評価や中期計画の進捗報告もある中で、この実施報告並びに実施計画については、日々の教育活動の実際の活動を目標とすることを一義に考えて、2022年度の実施計画を作成しそれに基づいて報告書を作成した。評価は活動内容ごとに評価し、その平均値を自己評価欄に記入した。評価決定に当たっては、一次評価者である学年部長や主幹教諭と質疑をしながら、彼らの経験や公平性、客観性を信頼しつつ最終的に校長が決定した。</p> <p>②本校の教育は、「noblesse oblige とグローバルリーダーの育成」のもと「共生・英知・高潔」の三つの教育目標を示してきた。近年、この三つの教育目標をより具体的に、アサーティブな人間関係を作ることができる人(共生)、メタ認知能力の高い人(英知)、困難を前にたじろがない強い心を持つ人＝熱誠の人(高潔)、の三つを定め、求める学習者像として整理することができてきた。ここ数年で生徒の中にもだいぶ浸透してきたと思っているが、今後は毎年各学年や分掌において、様々な角度からこの「学習者像」の実現に向けた取り組みを実践し、建学の精神を訴求することでブランド力を向上できる学校を目指したい。</p> <p>③今春の大学進学実績は想像以上の成果を上げたと思っている。特に学年・進路、そして教科指導の努力であろう。昨年の実績を上回ることは難しいと考えていた。特に国公立の合格者数は越えられないと思っていたが、いずれのカテゴリーでも昨年を上回った。確かに卒業生の数も昨年より 70 名ほど多かったが、その 70 名は比率としては圧倒的に下位者が多く、その下位者が GMARCH の合格者の増加につながっていると考えられる。このことは評価してよいことだと考える。</p>	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">総合 評価</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> </tr> </table>	総合 評価	A
総合 評価			
A			

学校関係者評価

<p>①「TQ ノート」について、毎日の目標設定、実行など自分で書くことは「一日一善」ではないが、毎日書く、実行する習慣こそが大切なことだと思っています。小さなことでも継続することができるはず。</p> <p>②「ロイロノート」の活用で教師と生徒との相互教育が思考力の養成、発想力の向上と自己の成長、学力の向上に資することでしょう。一方、今話題の対話形式 AI 「チャット GPT」 などの対応はどのようにすれば良いのか不明な点が多々ありますが、仕事量の軽減ばかりが強調されているのは残念に思います。</p> <p>③「伊藤園新俳句大賞」に中1～高2まで全員が応募しているということです。俳句は想像力を鍛え無駄を切り落とした簡潔な審美眼を養います。現在のデジタル社会において、物を見る眼を養う力になるのではと思っています。閑話休題、等々力中高の教育活動に賛同し、今後の発展を祈ります。</p>
--